

たいせつな 人と聴く 電子音響 音楽

日本電子音楽協会 (JSEM)
2011 16th Electroacoustic Live

2011年12月25日 (日)

at SARAVAH東京 (Bunkamura横)

OP.18:00 ST.19:00

Adv.¥2,000 Door.¥2,500

student Adv.¥1,500 Door.¥2,000

(+1ドリンク)

アナログ技術によって生まれた「電子音楽」から、
デジタル技術によるまったくあたらしい形の
「電子音楽」の可能性を切り拓く挑戦—

2012年に20周年を迎える、日本電子音楽協会 (JSEM)。
国内外で活躍する作曲家、研究者、技術者によって、
世界的視野に立った活動をおこなっています。

今回は映像と電子音響／ライブエレクトロニクスなど
先進的電子音響音楽作品を、
文化発信の場サラヴァ東京にて展開します。

2011年12月、東京。-電子音楽をいま、
「たいせつなひとと聴く」。

作曲・出演：森成功
宮木朝子
渡辺愛
大谷安宏
水野みか子

pf：榎谷静香

fl：窪田恵美

主催：日本電子音楽協会
後援：先端芸術音楽創作学会
Asia Computer Music Project



たいせつな人と聴く電子音響音楽

日本電子音楽協会 (JSEM) 2011 16th Electroacoustic Live



森 威功 Takeyoshi Mori

< The Entropic Forest for Flute and Computer > fl: 窪田 恵美

Profile: 洗足学園音楽大学卒業、ニューヨーク大学大学院ミュージックテクノロジーコース修士課程修了。作曲をRobert Rowe、Joel Chadabe、サウンドプログラミングをRichard Boulanger、Nick Didkovsky各氏に師事。現在の活動はコンピュータ音楽制作をはじめCM音楽制作やソフトウェア開発など多岐にわたる。作品はMusica Viva 2007 (ポルトガル)、ICMC (国際コンピュータ音楽会議)、2008 (北アイルランド)、ニューヨーク電子音響音楽フェスティバル (アメリカ)、101Tokyo (アイスランド)、ACMP2010、2011 (韓国) 等で演奏されている。東京藝術大学、玉川大学、洗足学園音楽大学非常勤講師。先端芸術音楽創作学会、日本電子音楽協会各会員。



宮木 朝子 Asako Miyaki

< Install in Air - 香りと音と光像のための > オブジェ制作: 小阪淳

Profile: 現代音楽を起点に知覚横断的活動を行い、器楽作品、電子音響と映像による作品などで国内外の賞に入選。作品はイタリア、イギリス、エジプト、ドイツ、フランスの音楽祭で上演され、NHK-FM、ELECTRAIN DE NUIT (ラジオフランス) にて放送される。'09年発売のCD < Virtual Resonance > は、「磨き上げた鮮烈な響きの生々しい音像に惚れ惚れする」(CD ジャーナル) 「雅楽と電子音響、エレクトロニカ、現代音楽らが交差した、宇宙レベルのアンビエント・サウンド」(Beams Records) などと評される。洗足学園音楽大学音楽・音響デザインコース講師。



渡辺 愛 Ai Watanabe

< 影はナイフとなってあなたの夢を貫く - ピアノとオーディオのための > pf: 樽谷静香

Profile: 東京音楽大学大学院作曲専攻修了。パリ国立地方音楽院にて電子音響音楽の作曲とエクリチュールをドニ・デュフル氏らに師事。MOTUS、FUTURA、奨学金を得てACANTHES夏期アカデミー、IRCAMなど講習参加多数。器楽・音響音楽・即興・アコースティックと多岐に渡り活動する。第一回学長賞受賞、CCMC入選、PhonurgiaNova主催のピエール・シェフェール賞 (フランス)、TEM主催のJapan2011 (イタリア) など受賞多数。現在、東京藝術大学大学院音楽音響創造分野博士後期課程に在籍。



大谷 安宏 Yasuhiro Otani

< Living Music (リビング・ミュージック) - ギターとコントローラと映像のための > guit: 大谷安宏

Profile: 作曲家、ギターリスト。幼少の頃から音楽と電子工作に興味を持つ。活動の場は、国内外の大学・研究機関、音楽フェスティバル、寄席、ライブハウス、アンダーグラウンド・シーンなど。また、地域に密着型サウンド・アート・プロジェクトやワークショップを展開。ロックフェラー財団日米芸術交流プログラム助成アーティスト。日本作曲家協議会会員。



水野 みか子 Mikako Mizuno

< Ohshiki-dea ~Tokyo version~ 電子音響と映像のための > 映像: 河西進

Profile: 作曲と音楽学の分野で活動を展開。作品は、オーストリア、フランス、イタリア、イギリス、ハンガリー、モルドヴァ、アメリカ合衆国、オーストラリア、中国など海外でも多数紹介されている。2011年は、カナダ、ニュージーランド、シンガポール、中国と結んで「高速度音響通信ネットワーク」による「テレマティック作品」に挑戦し、北京Musicacouticaと名古屋の同時上演を実施した。名古屋市立大学芸術工学部芸術工学研究科教授。

SARAVAH東京 TEL/FAX 03-6427-8886 web予約 <http://www.saravah.jp/tokyo/> contact@saravah.jp

主催: 日本電子音楽協会(JSEM) <http://jsem.sakura.ne.jp/>

問い合わせ: miyaasako@mac.com (本企画担当)

後援: 先端芸術音楽創作学会(JSSA) <http://www.jssa.info/doku.php>

Asia Computer Music Project(ACMP) <http://www.acmp.asia/>

連携企画

インターカレッジ・コンピュータ音楽コンサート2011

期日: 2010年12月9日(金)、10日(土)、11日(日)、12日(月)

会場: 首都大学東京・日野キャンパス

交通: JR中央線 豊田駅から徒歩20分/バス10分

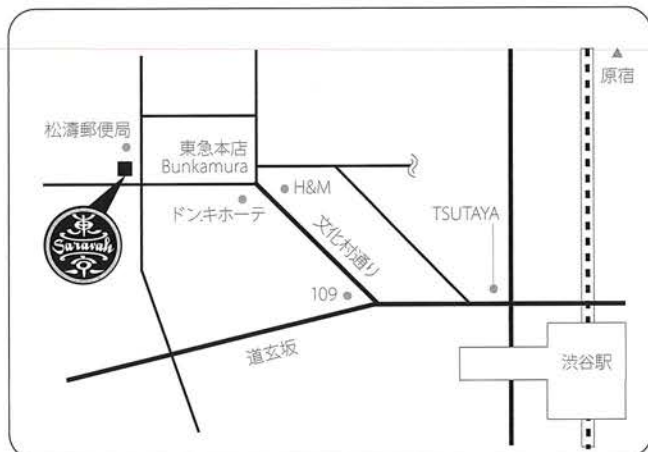
<http://www.sd.tmu.ac.jp/campusmap/access.html>

<http://www.sd.tmu.ac.jp/campusmap/location.html>

主催: インターカレッジ・コンピュータ音楽実行委員会

共催: 情報処理学会音楽情報科学研究会

開催校/協力: 首都大学東京、東京大学



たいせつな
人と聴く
電子音響
音楽

日本電子音楽協会 (JSEM)
2011 16th Electroacoustic Live
2011年12月25日 (日)
at SARAVAH東京



ごあいさつ

日本電子音楽協会会長 西岡龍彦

このコンサート会場で2011年のクリスマスの夜を迎えようと考えて下さった皆様に、心から御礼申し上げます。

来年で創立20周年になる日本電子音楽協会は、創設時からのメンバーが企画・運営に当たってきた体制から、徐々に若い世代が活躍する体制に移行しつつあります。今夜の企画も世代交代を反映して、プログラムの内容、会場、そしてコンセプトなど、新しい試みが随所に見られます。

大切な人と来られた皆様には、このコンサートの時間を共有していただくことで、これまで以上に深い理解と愛情が生まれることをお祈りしています。このコンサートが原因で何か気まずいことがあっても、当協会は一切の責任を負いません。

Program

1. 森 威功 Takeyoshi Mori

The Entropic Forest for flute and computer (2010) fl: 窪田 恵美

2. 宮木 朝子 Asako Miyaki

Install in Air- 香りと音と光像のための (2011) オブジェ制作: 小阪 淳 映像: 宮木 朝子

3. 渡辺 愛 Ai Watanabe

L'ombre se transforme en couteau qui transperce tes rêves -
影はナイフとなってあなたの夢を貫く -
～ピアノとオーディオのための～ (2009) pf: 樽谷 静香

Pause

4. 大谷 安宏 Yasuhiro Otani

Living Music For Electric Guitar, live electronics (2011)

5. 水野 みか子 Mikako Mizuno

Ohshiki-dea, Tokyo version (2011) 映像: 河西 進 (協力: 加藤 聖也)

音響: 岩崎 真

森 威功 Takeyoshi Mori

The Entropic Forest for flute and computer (2010)

fl: 窪田 恵美

作品について

本作品は、2000年に横浜美術館で開催されたドイツ人写真家ハイナー・シリング氏の写真展のために制作したサウンドインスタレーションの音源を、フルートとコンピュータによるライブエレクトロニクス作品として再構築したものである。

シリング氏が東京周辺で撮影した写真には、局所的な都市開発によってもたらされた無秩序な風景が日常生活の中から切り取られている。そこでは無機質なまでに視野の中のものが均一化し、人間のエモーションな部分は極力排除され、光学的な重みづけもない。そのため日常的な細部が独特な視点で浮かび上がる。人間もまたその都市の細部の一つでしかない。そして現在もなおエントロピーの森は拡がりつづけているのである。

オリジナルの音源は、コンピュータ音楽言語 RTcmix を用いて自動生成した。今回はその一部をモチーフとしてフルートのパートを作曲し、Max/MSP で構築したライブコンピュータシステムでフルートの演奏を拡張する。またグラニューラサンプリングやスペクトル変調など多様なリアルタイム音響処理を試みる。

プロフィール

洗足学園音楽大学卒業、ニューヨーク大学大学院ミュージックテクノロジーコース修士課程修了。作曲を Robert Rowe、Joel Chadabe、サウンドプログラミングを Richard Boulanger、Nick Didkovsky 各氏に師事。現在の活動はコンピュータ音楽制作をはじめ CM 音楽制作やソフトウェア開発など多岐にわたる。作品は Musica Viva 2007 (ポルトガル)、ICMC2008 (北アイルランド)、ニューヨーク電子音響音楽フェスティバル (アメリカ)、101Tokyo (アイスランド)、ACMP2010、2011 (韓国) 等で演奏されている。東京藝術大学、玉川大学、洗足学園音楽大学非常勤講師。先端芸術音楽創作学会、日本電子音楽協会各会員。



フルート: 窪田 恵美

プロフィール: 福井県出身 小学3年よりブラスバンドにてフルートを始める。2006年全日本学生音楽コンクール全国大会高校の部1位 2010年日本音楽コンクール入選 また、2009年木ノ脇道元氏の「夜明け、リフレイン、オスティナート、海」を初演。福井交響楽団、名古屋フィル、芸大フィルと共演これまでに大道幸枝、大平記子、金昌国、高木綾子、木ノ脇道元の各氏に師事。現在、東京藝術大学4年在学中。安宅賞受賞。



宮木 朝子 Asako Miyaki

Install in Air- 香りと音と光像のための (2011)
オブジェ制作: 小阪 淳 映像: 宮木 朝子

作品について

「音とは記憶の匂いを持った空気の流れ」- あるときそんな言葉が浮かんだ。香りは一瞬にして過去の記憶を呼び覚ます。その時の感覚に似たものを、ある音響に感じたのだ。記憶、さらには原体験を呼び覚ましたい、そんな願望を漠然と抱いていた。知らずに求めているものは、光、音、香り、だった。それらは現象として、空間のなかに記憶を誘発する層をつくりだす。その層のなかに身をおくとき、3つの知覚はわかちがたく溶け合った。やがて記憶は、体験したことの無い光景をなつかしく描きだす。予兆への変換。

視覚 光の像としての映像=記憶と強く結びついた、光-景を投影。

聴覚 オルゴールの生の音/オルゴールの音を中心に電子的に変成された音響を空間投影。

嗅覚 トップノート、ミドルノート、ラストノートといった、揮発時間の異なるエッセンシャルオイルをブレンドし、時間的に変化する空気の層をつくる。

時間と空間の体験を共有する3つの知覚。音楽素材の堆積と消滅、香り素材の堆積と消滅。そのとき、記憶と感覚のなにかが見出されていくのか?

プロフィール

桐朋学園大学音楽学部作曲専攻、同研究科卒。現代音楽を起点に知覚横断的活動を行い国内外の音楽祭にて発表、器楽作品、電子音響と映像による作品などで国内外の賞に入選。作品はイタリア、イギリス、エジプト、ドイツ、フランスの音楽祭で上演され、NHK-FM、ELECTRAIN DE NUIT(ラジオフランス)にて放送される。国立天文台4次元デジタル宇宙プロジェクトにて立体映像のための音楽音響を担当(ハワイ島イミロア天文センター、日本科学未来館常設公開中。Siggraph2007 エレクトリック・シアター入選作品上映音楽)。奄美大島の遺跡や聖地等、特異な場におけるフィールドワーク、サウンドインスタレーションの試みを続けている。'09年発売のCD < Virtual Resonance-sound image for 4D2U > <http://www.te-pito-records.com/> は、「磨き上げた鮮烈な響きの生々しい音像に惚れ惚れする」(CDジャーナル)「雅楽と電子音響、エレクトロニカ、現代音楽らが交差した、宇宙レベルのアンビエント・サウンド」(Beams Records)などと評される。洗足学園音楽大学音楽・音響デザインコース講師。

オブジェ制作: 小阪 淳

プロフィール: 美術家。大阪大学工学部建築工学科卒業、東京芸術大学大学院建築科修了。2005年国立天文台 4D2Uナビゲータ制作。文化庁メディア芸術祭 エンターテインメント部門審査委員会推薦作品。2007年カンヌ国際広告祭 2007Cyber Lions銅賞受賞。「一家に一枚宇宙図」制作に参加。2010年7月東京書籍「宇宙に恋する10のレッスン」出版(共著)。2011年3月富山県新高岡駅マーケット開発計画。東京都写真美術館「映像をめぐる冒険 vol.4 見えない世界の見つめ方」参加。朝日新聞朝刊 毎月最終木曜日「論壇時評」にビジュアル連載。



渡辺 愛 Ai Watanabe

L'ombre se transforme en couteau qui transperce tes rêves -
影はナイフとなってあなたの夢を貫く - ~ピアノとオーディオのための~ (2009)
pf: 樽谷 静香

作品について

昨日見た夢の話がされることほど、うんざりすることはない。と言ったのは美術家の大竹伸朗であったが、録音された素材を扱うことはすでに散った夢の断片を編集するのに似ているから、いつもちょっと慎重に振る舞う。夢は即物的でとりとめがなく、とりとめがないまま現実が介入してしまうのは「昨日こんな夢みてさあ…」と相手の困惑顔もなんのそので語る状態にほかならない。それでも思うのだ。“作曲家がなにかを語ろうとする前に、世界は既にたくさんの事を物語っている”。だから創作という行為は生み出すというよりも、横切る、という方が、すくなくともわたしにとっては自然な態度となっている。環境音や具体音を編むとなれば、ことさらそうだ。表題は村上春樹の小説『海辺のカフカ』の中から引用した。

ピアニスト・石井佑輔氏の委嘱により2009年10月に作曲、2010年2月オルレアン20世紀国際ピアノコンクール(フランス)で初演。TEM主催・JAPAN2011受賞作品(イタリア)。

プロフィール

東京音楽大学作曲専攻卒業を経て、同大学院作曲修了。卒業作品“MIREKOPE ~オーケストラのための~”が優秀作として選抜・初演される。2008年より拠点をパリに移し、パリ国立地方音楽院(Conservatoire à Rayonnement Régional de Paris)にて電子音響音楽の作曲とエクリチュールをドニ・デュフル氏に師事。現在、東京芸術大学大学院音楽文化学専攻・音楽音響創造博士後期課程に在籍。第一回学長賞受賞、CCMC入選、東京国際室内楽作曲コンクールにノミネートされる他、Phonurgia Nova主催のビエール・シェフェール賞に選ばれる。MOTUS 夏期アトリエ(04年)、FUTURA(05,06年)、奨学金を得てACANTHES 夏期アカデミー(06年)、IRCAM 講習(09年)参加。器楽・音響メディア・即興・アークスマティック(空間音響)とその作曲手段は多岐に渡り、ダンス・映画音楽にも作品を提供。移動式音楽喫茶『秋福音』のマドラー(サウンドミキシング)担当として即興パフォーマンスライブも展開している。今までに作曲を西岡龍彦、尾高惇忠、小鍛冶邦隆、靴場富美子、西村朗、ドニ・デュフルの各氏に、短期的には細川俊夫、ジェラルド・ベソン、ペアート・フラー、湯浅譲二の各氏にも師事している。また、ピアノを堀江真理子・中嶋香の各氏に、エクリチュールをルノー・グランマンジュ氏に、アークスマティック演奏法をジョナタン・ブラジェの各氏に師事。



ピアノ: 樽谷 静香

プロフィール: 東京都出身。2003年、東京音楽大学ピアノ演奏家コース卒業。古典作品から同時代作品の初演まで、幅広く演奏活動を行っている。これまでにピアノをオットガッリ佳子、三谷温、石附秀美、東誠三の各氏ほかに師事。





大谷 安宏 Yasuhiro Otani

Living Music For Electric Guitar, live electronics (2011)

作品について

「断続的な知覚」をテーマに、ギター、ライブエレクトロニクス、映像のアンサンブルによって構成。ライブパフォーマンスは私にとって重要なファクターであるため、ギターパートには即興の部分をもうけている。

オーディオ・プロセッシングは、Ableton Live 8.2.5 で動作する MaxForLive と SuperCollider で生成される。音響は Score 上の Microsound、repetitive、Freeze、MicroLoop、PitchShift、Filter などの指示により、ギターの演奏をトリガーとして作られる。

プロフィール

作曲家、ギターリスト。最新作「The Difference Machine」メディアアートフェスティバル CINESONIKA2012 入賞。ロックフェラー財団日米芸術交流プログラム助成アーティスト。日本作曲家協議会会員。

水野 みか子 Mikako Mizuno

< Ohshiki-dea ~Tokyo version-- 電子音響と映像のための > (2011)

映像: 河西 進 (協力: 加藤 聖也)

作品について

雅楽の音階音のひとつである黄鐘（おうしき）は、西洋音階の標準的 A 音 (440Hz) に近い高さを持っていて、この音を主音とする音の並びは、イ短調に近似している。これが夏の調子とされたことに興味を抱いた。「黄色い鐘」というきわめて具体的な視覚要素が、音に対する特別なイメージを起こさせる。<dea> という、西洋の音名を想起させるアルファベットのグループは、私の家族の名前を埋め込んだ、極めてプライベートな象徴文字でもある。

この作品の音素材は、これまでに録音した様々な実音素材とピアノや笛などの楽器音を加工・編集したものである。逆行音や逆行音形を元の音や音形と直接に結節する、「蝶型」の構成は、2009 年ころ以降の音処理技術によって初めて音楽作品にも安心して使うことができるようになった手法だと思う。

今回は、河西進さんに、この音楽への映像を創作して下さるようお願いした。河西さんとはこれが2回目のコラボレーションになる。制作段階の映像を何度も拝見し、意見を交わしながら完成へと辿って行ったが、河西さんの強烈な個性は終始変わらない。幻想絵画のような映像の時空間が音楽に寄り添い、それがライブ会場でも更に息づくだろうと楽しみにしている。なおアコースティック作品の<Ohshiki-dea>は2011年10月5日、イタリアのNuova Musica音楽祭で初演された。



プロフィール

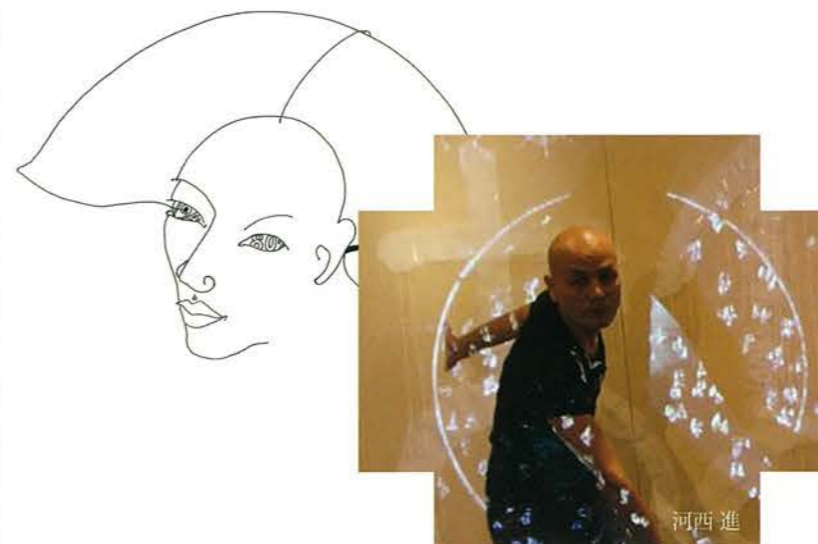
作曲と音楽学の分野で活動を展開。作品は、オーストリア、フランス、イタリア、イギリス、ハンガリー、モルドヴァ、アメリカ合衆国、オーストラリア、中国など海外でも多数紹介されている。2011年は、カナダ、ニュージーランド、シンガポール、中国と結んで「高速度音響通信ネットワーク」による「テレマティック作品」に挑戦し、北京 Musicacoutica と名古屋の同時上演を実施した。名古屋国立芸術工学部芸術工学研究科教授。

映像・パフォーマンス: 河西 進

プロフィール: 1980年代後半よりアート活動を展開。「アートスクランブル秋」(1995)でのアートパフォーマンス「森10m*2m(1*0) デジタル表現+言語、井上有一」現代書(1998、ソウル)のビデオ映像、「アート・コラボレーション新聞」(2003)で琴奏(パーカッション)、岩下徹(ダンス)と共演した造形制作、中国杭州国際芸術祭(2005)で井上有一現代書法展撮影、個展《ゼロ》(2010、ウナククトウキョウ)など、その創作はジャンルを越えて多岐に渡る。

テクニカル・アシスタント: 加藤 聖也

プロフィール: 名古屋国立芸術工学部在学中。オーディオ・ビジュアルを中心にメディア・デザインを研究中。



日本電子音楽協会 Japanese Society for Electronic Music (JSEM)

1953年にドイツ・ケルンの放送局において音楽史上初めての電子音楽が公開されてからすでに半世紀が経過しました。その間に「電子音楽」という言葉は電子技術を用いた音楽／作曲のまったく新しい領域を夢見た当時の歴史的な作品や理念を示す用語として使われるようになり、現在それらは、コンピュータ音楽、エレクトロ・アコースティック・ミュージック、さらにはメディア・アートにおける一領域としてのデジタル・ミュージックと呼ばれるようになっています。

日本電子音楽協会は、電子音楽が生まれた当時の夢を21世紀の音楽芸術における新しい可能性へと拓けるべく1992年に設立され、以来、作曲家、研究者、技術者らが集い、世界的視野に立った活動を行ってきました。それはまた、アナログ技術によって生まれた「電子音楽」から、デジタル技術によるまったく新しい形の「電子音楽」の可能性を切り拓く挑戦でもありました。ポピュラー音楽においてもまた、コンピュータをはじめとするデジタル機器を用いた作曲・演奏がごく日常的事物になっている現在、日本電子音楽協会は、様々な専門分野の交流を通して、日々刷新されるテクノロジーと音楽／芸術の新しい関係を私達の社会に提案していく場として活動を続けています。

協会 website <http://jsem.sakura.ne.jp/>

新入会員随時募集：

正会員1名の推薦が必要。活動歴、作品歴、推薦者の署名入りの入会申込書を事務局宛に送付。詳しくはwebをご覧ください。

音響 岩崎 真

チラシ・プログラムデザイン 小阪 淳

企画・制作 宮木 朝子 森 威功

主催 日本電子音楽協会

後援 先端芸術音楽創作学会 Asia Computer Music Project